


スライドの修正について

解説② 評価システムの主な変更点について

スライド 16



◆ ④大学が社会の支持を得るための支援を強化する

3) 評価報告書の様式を変える(判定に不適合の根拠の記載、総評などを読みやすくする)

評価報告書

第3期 自己点検評価書の様式

〇〇大学

I 評価結果

【判定】
評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認定する。

評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認められない。

II 総評

【基準1. 使命・目的等】について
大学は、建学の精神のもと、さまざまな領域の人的育成を総合的にしている。開学以来、教育課程及び組織の改革・刷新の取り組み、大学経営及び博士後期課程を推進するほか、国際学位を推進し、時代の進歩・変化への対応を果敢に行っている。大学の使命・目的及び三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）等についてはウェブサイト、学生総覧、種別要綱、教員総覧等に情報を一元化して掲載され、学内外への周知を図っている。

【基準2. 学生】について
アドミッション・ポリシーは、建学の精神及び教育目的に基づき学部及び大学院で明確に定められ、入学者選抜要項とウェブサイトと両記している。専任教員と事務職員は協議で各種委員会を組織し、クラス制やガイダンスの実施など、学部支援に関する実施例は適切な制度・運営としている。
しかしながら、大学全体の取組定員充足率は0.5割を大きく下回っており、適正な改善が必要である。

→

評価報告書

第4期 自己点検評価書の様式

〇〇大学

I 評価結果

【判定】
評価の結果、「基準3. 学生」を満たしていないため、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認められない。

II 総評
各基準の評価、大学が設定した独自基準、大学が挙げた特記事項は以下の通りである。

各基準の評価	判定
基準1. 使命・目的	満たしている
基準2. 内部質保証	満たしている
基準3. 学生	満たしていない
基準4. 教育課程	満たしている
基準5. 教員・職員	満たしている
基準6. 経営・管理と財務	満たしている

独自基準

基準A. 社会貢献

基準B. 国際交流


特記事項

1. 日本国、世界初の取組み

2. 新型コロナウイルスへの対応

16

スライド 17



◆ ④大学が社会の支持を得るための支援を強化する

3) 評価報告書の様式を変える(判定に不適合の根拠の記載、総評などを読みやすくする)

評価報告書

第3期 自己点検評価書の様式

【基準6. 内部質保証】について
令和3(2021)年4月に設置された学長を委員長とする内部質保証委員会は、点検評価委員会が実施した点検・評価に関して学长的な観点で検証を行い、その結果を点検評価委員会アドバイザー、学長、副学長、教務課長、研究科、事務局の4名で構成する定常を実施するFDCAモデルを構築している。自己点検評価書は3年に一度のサイクルで作成し、内部質保証委員会、学園運営委員会、教職会、理事会で確認の周、ウェブサイトで公表している。

総評で、建学の精神のもと、大学、大学院及び短期大学は連携・協力し、さまざまな領域の人的育成を総合的に行う教育を実施している。大学は地域社会の中核となり、数多くの社会貢献活動を推進し、教育資源を積極的に提供した社会貢献活動の高い評価を受けており、今後一層の発展が期待される。

(「大学独自の基準」として設定されている。「基準A. 社会貢献」「基準B. 国際交流」については、各基準の根拠を明確にしたい)
なお、大学が「特記事項」として挙げたのは以下のとおり。
1. 日本国、世界初の取組み
2. 新型コロナウイルスへの対応

→

評価報告書

第4期 自己点検評価書の様式

〇〇大学

I 評価結果

【判定】
評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認定する。

評価の結果、「基準3. 学生」を満たしていないため、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認められない。

II 総評
各基準の評価、大学が設定した独自基準、大学が挙げた特記事項は以下の通りである。

各基準の評価	判定
基準1. 使命・目的	満たしている
基準2. 内部質保証	満たしている
基準3. 学生	満たしていない
基準4. 教育課程	満たしている
基準5. 教員・職員	満たしている
基準6. 経営・管理と財務	満たしている

独自基準

基準A. 社会貢献

基準B. 国際交流

特記事項

1. 日本国、世界初の取組み

2. 新型コロナウイルスへの対応

17

◆ ④大学が社会の支持を得るための支援を強化する



4)公表方法の検討（「評価結果の読み方」の追加など）

評価報告書

第3期 自己点検評価書の様式

Ⅲ 基本ごとの評価

基準 2. 学生

【評価】
基準を達成していない。

2-1. 学生の受入れ

2-1-① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と開示
2-1-② アドミッション・ポリシーに基づいた入学選抜のための選考とその開示
2-1-③ 入学選抜に当たって適切な学生受入れ態勢の確保

【評価】
基準を達成していない。

【理由】
アドミッション・ポリシーは、建学の精神及び教育目的に基づいて学業、専攻科、研究科で明確に定められ、それぞれの人学意識啓発とウェブサイトで開示されている。入学選抜実施要領にアドミッション・ポリシーに基づいて開示され、入学選抜実施要領に入試委員、入試実施本部、アドミッション委員会の連携のもと、適切に開示されている。入試要領は、専任教員及び兼任教員の中心で策定された後継者制により作成され、出席して当該学生に目的に関する説明が実施されている。
しかしながら、入学選抜の取組状況報告書が必ずしも添付されており、継続的な改善が必要である。

【改善を要する点】
①入学選抜の取組状況報告書が必ずしも添付されており、入学選抜の取組について緊急の改善が必要である。

2-2. 学生支援

2-2-① 教員と職員等の協働をはじめとする学際支援体制の確保
2-2-② TA(Teaching Assistant)等の活用をはじめとする学際支援の実施

【評価】
基準を達成している。

【理由】
専任教員と事務職員協働による数字支援組織として、経営課教員、海外研修委員、キャリアアドバイザー、図書委員、学生支援委員が設置され、アドミッション・ポリシーの策定など、学際支援に関する方針・計画・実施計画は適切に策定・実施されている。また、



評価報告書

第4期 自己点検評価書の様式

Ⅲ 基本ごとの評価

基準 2. 学生

【評価】
基準を達成している。

2-1. 学生の受入れ	達成している。
2-2. 学生支援	達成している。
2-3. 学生サービス	達成している。
2-4. 学生キャリア	達成している。
2-5. 学生就業・修業	達成している。

【評価】
アドミッション・ポリシーは、建学の精神及び教育目的に基づいて学業、専攻科、研究科で明確に定められ、それぞれの人学意識啓発とウェブサイトで開示されている。専任教員と事務職員協働による数字支援組織として、経営課教員、海外研修委員、キャリアアドバイザー、図書委員、学生支援委員が設置され、アドミッション・ポリシーの策定など、学際支援に関する方針・計画・実施計画は適切に策定・実施されている。
また、アドミッション・ポリシー、アドミッション委員会の連携のもと、適切に開示されている。入学選抜の取組状況報告書が必ずしも添付されており、継続的な改善を行う必要がある。
学生サービスについては、学生生活委員会、学生生活センターに役割分担が明確に開示されている。
図書課については、専任教員の協働と連携を確保し、ウェブサイトでオープンリーな学際支援体制を整備する仕組みが構築されている。キャリアアドバイザーについては、専任教員に委託して専攻科学生支援が実施されている。専攻科学生支援が実施されている。
しかしながら、入学選抜の取組状況報告書が必ずしも添付されており、継続的な改善が必要である。

【備考】
①各学期に建学の精神に基づいた科目を配置し、学生の学習意欲を醸成している。


【改善を要する点】
①入学選抜の取組状況報告書が必ずしも添付されており、入学選抜の取組について緊急の改善が必要である。②③④

⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

評価報告書の読み方はこちら
http://www.jiheee.org/jahieevent/archives_year/



基準1. 使命・目的等




趣旨

大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とした機関です。とりわけ、専門職大学は、専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開させることを目的としています。大学は、使命・目的を明確に定めるとともに、教育研究上の目的を学則などにおいて明確に定める必要があります。また、それらを、①ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)②カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)③アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)に反映するとともに、使命・目的に整合した教育研究組織を構築し、計画的に使命・目的及び教育研究上の目的を達成していくことが求められます。

5


3-5.学修環境の整備



評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①校地、校舎などの学修環境の整備と適切な管理運営	<input type="checkbox"/> 教育研究上の目的の達成のために必要な校地、校舎などの施設・設備を整備し、適切に管理運営しているか。 <input type="checkbox"/> 快適な学修環境を整備し、かつ有効に活用しているか。 <input type="checkbox"/> ICT環境を適切に整備しているか。
②図書館等の有効活用	<input type="checkbox"/> 図書館を十分に利用できる環境を整備し、教育研究に資する十分な学術情報資料を提供しているか。
③施設・設備の安全性・利便性	<input type="checkbox"/> 施設・設備は、バリアフリーなど安全性と利便性を図り、学生の多様性に配慮しているか。 <input type="checkbox"/> 施設・設備の安全性(耐震など)を計画に基づき適切に管理しているか。 (専門職大学のみ) <input type="checkbox"/> 実験・実習室及び付属施設のほか、臨地実務実習その他の実習に必要な施設を確保し、適切に活用しているか。

18

6-3.管理運営の円滑化とチェック機能



評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①法人の意思決定の円滑化	<input type="checkbox"/> 意思決定において、理事会と評議員会が意思疎通と連携を適切に行っているか。 <input type="checkbox"/> 教職員の提案などをくみ上げる仕組みを整備しているか。
②評議員会と監事のチェック機能	<input type="checkbox"/> 評議員の選任を適切に行っているか。 <input type="checkbox"/> 評議員会の運営を適切に行っているか。 <input type="checkbox"/> 監事の選任を適切に行っているか。 <input type="checkbox"/> 監事は、監事の職務を適切に行っているか。

指定するエビデンス資料(案)

- 評議員を選任した際の会議体の議事録
- 監事・会計監査人を選任した際の評議員会の議事録
- 予算・決算を審議した際の評議員会の議事録
- 監事監査に関する規則
- 監事監査計画書

38